

【暗証聖句】

「信仰によって、モーセは王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたからです。」ヘブライ人への手紙 11 章 27 節

【日・父なる神の途方もつかない思い】

しばしば私たちは、なぜ神様はこのようなことをなさるのだろうかと思うようなことを経験させられることがあります。これは私たちの思いと神様の思いが異なるからです。

イザヤ書 55 章 8、9 節「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる。天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたたちの道を、わたしの思いは、あなたたちの思いを、高く超えている。」

神様は常に私たちにとって良いことしかありません。しかし、私たちの思いと神様の思いが異なると、良いことが起きているようには感じられないことがあるのです。その時に必要なことは、それでも神様のなさることは良いことだと信じることです。

エレミヤ書 29 章 11 節「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」

神様は、私たち一人ひとりに対して希望と将来につながる平和の計画を持っておられます。それをなさっておられるのです。ローマの信徒への手紙 8 章 28 節に、「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」とあるように、神様がなさることはすべて私たちの益となるのです。神様の思いと私たち思いとが異なることであつたとしても、主が最善をなしてくださっているのだと信じていきましょう。

【月・イエスの御名によって】

イエス様は私たちにイエス様のお名前を使って祈ることを許してくださっています。一般に名前を使わせると言うのは、その人を信頼している証拠です。また、イエス様の名前には驚くべき力があるのです。

\*証・・・かつて、神戸アドベンチスト病院の建築資金を集めるために、当時の牧師さんが一生懸命募金活動をしました。まず神戸市長さんにお会いすると、病院を建ててくれることはありがたいことだと賛同してくださり、自分の名前を使いなさいと名詞を下さって、市長の後援者を回らせてもらったのです。市長の名前の力は大きく、多くの個人や企業が募金してくれたそうです。

市長の名前に力があるように、イエス様の名前には力があります。その影響力は宇宙全体にまで及びます。イエス様のお名前でするとき、み使いたちは天から遣わされ、主の働きを助けます。イエス様の名前を使うことが許されるほどの信頼関係を、いつも築き上げていきたいものですが、イエス様は、ヨハネ 15:7 では、「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる」とも言われています。祈りがかなえられる条件、それは主につながっていることです。主といつもつながっている人の祈りはきかれるのです。ではどのように主といつもつながっていることができるのかといえば、それはイエス様の言葉、聖書の言葉がいつもその人の内にあることだとイエス様は言われました。主のみ言葉が、私たちとイエス様とを結びつける帯となるのです。神様を信じるというのは、み言葉を信じるということでもあります。み言葉を信じるためには、そのみ言葉がいつも私たちの内になければなりません。み言葉が蓄えられていくごとに、そのみ言葉を語られたイエス様とのつながりを強く感じるようになり、ますます信じられるようになっていくのです。その上で、イエス様の御名を使って祈っていくことが重要です。

【火・復活の力】

釣りをしていたある男性が、大きな魚が釣れると逃がしてしまい、小さな魚だけを持ち帰ろうとしていました。隣の釣り人が、「なぜ大きな魚を逃がしてしまうのですか」と尋ねると、「うちのフライパンのサイズには大きすぎるからさ」と答えたのでした。私たちは神様の力を過少評価して、この祈りはかなえられるかもしれないけど、あの祈りは大きすぎて無理と、自分の信仰のサイズに合わせて判断していることはないでしょうか。エフェソの手紙 1 章 18～21 節に次のように書かれてあります。「心の目を開いてくださるよう。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるよう。また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるよう。神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでな

## く、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました」

パウロは私たちに二つのことを悟るようにと言っています。それは、まず私たちにどれほど素晴らしい希望が与えられているか、すなわち神様の栄光に輝く御国を受け継ぐことが約束されているということ。また、神様の力は、死者を復活させるほど絶大なものであり、祈りはこの絶大な力によってかなえられるものであるということです。はたして私たちが神様に祈るときに、大きな希望の中で、復活の力を期待して祈っているでしょうか。

### 【水・すべての心配を任せる】

からまってしまった紐をほどくのは、大変ということを経験していることでしょう。時に、私たちの人生もからまってしまふことがあります。このようなとき、どうしたら良いのでしょうか。ある人が、「人生がもつれてしまったら、神様のところに持って行ってほどもらいなさい」と言いました。神様はどれほどひどくからまり、もつれてしまった人生でも、まっすぐに直すことができます。ペトロの手紙一 5 章 7 節に「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけてくださるからです」と書かれてあります。「お任せする」という言葉は、「放り出す」「明け渡す」という意味の言葉です。自分の問題を放り出して良いのだろうかとまじめな人は思うかもしれませんが、聖書は逆にそうしなさいと教えているのです。神様に任せてしまえば、重荷から解放されます。神様に委ねたつもりでも、まだ重荷を感じるなら、神様に放り出してはいないことを意味しています。

ある人が重たい荷物を背負って田舎道を歩いていました。後ろを通りかかったトラックが、荷台でも良かったら乗っていかと声をかけてくれたので、その人は感謝して荷台に乗りました。走り出してしばらくして、運転手が後ろの荷台を見ると、荷物を背負ったまま、荷台に立っているではありませんか。そこで「荷物を降ろしたら」と声をかけると、「そこまでしてもらったら悪いから」と答えたのでした。

こっけいなお話です。しかし、これと同じようなことを、私たちも神様に対して、しているかもしれないのです。神様に重荷をゆだねるときは、何も委ねてしまうことが大切なのです。先にお読みしたペトロの手紙一 5 章 7 節は、詩編 55 編 23 節からの引用ですが、詩篇では次のように書かれています。

「あなたの重荷を主にゆだねよ。主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え、とこしえに動揺しないように計らってくださる。」

主は、私たちが一瞬ではなく、永遠に動揺しないように計らってくださいます。

### 【木・神が見えないときにも信じる】

イザヤ書 40 章 27～31 節「ヤコブよ、なぜ言うのか。イスラエルよ、なぜ断言するのか。わたしの道は主に隠されている、とわたしの裁きは神に忘れられた、と。あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。主は、とこしえにいます神。地の果てに及ぶすべてのものの造り主。倦むことなく、疲れることなく、その英知は究めがたい。疲れた者に力を与え、勢いを失っている者に大きな力を与えられる。若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが、主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」

試練や苦難の中で、神様は自分のことを忘れてしまったと思ってしまいがちです。しかし、そのようなことは決してありません。神様は疲れた者に力を与えます。主に望みを置く人は新たな力を得て、まるで鷲が空高く舞い上がっていくように、翼を張って高く舞い上がり、疲れることなく走っていくことができます。

旧約聖書のエステル記は、自分たちの道が主に隠されていると思えるような状況の中で、神様が一人の女性エステルを通して働かれた物語です。時代背景は、バビロニア帝国がメド・ペルシャ帝国によって滅ぼされた後のこと、エルサレムに帰還した人々はわずかで、そのままペルシャ帝国に残った人々も大勢いました。ある日のこと、権力者ハマンが自分に跪かないモルデカイに対して恨みをいだき、そのことからなんとユダヤ人を皆殺しにすべく陰謀をめぐらせていくのです。民全体に危機が迫る中、モルデカイの養女エステルが、ペルシャ王クセルクセスのきさきに選ばれます。そして、エステルが機転をきかせて、この窮地からユダヤ人を救うのでした。

エステルをクセルクセスのきさきにしたのは、神様でした。これは偶然ではありません。神様はユダヤ人たちが、このような窮地に陥ることをご存じであり、そこから救い出すためにエステルを選ばれたのです。

これと同じように、私たちの人生におこる一つ一つの出来事は偶然ではなく、すべて主の導きとご計画の中にあります。このことが見えてくるとき、私たちは驚きと、喜びに包まれるのです。